



平和について考える(2)

私たちが未来創る番

あなたにとって、大切な人は誰ですか。

家族、友だち、先生。

私たちには、大切な人がたくさんいます。

大切な人と一緒に過ごす。笑い合う。

そんな当たり前の日常はとても幸せです。

昭和20年(1945年)8月6日午前8時15分。

道に転がる死体。死体で埋め尽くされた川。

「水をくれ」「水をください」という声。

大切な人を一瞬で亡くし、当たり前の日常や未来が突然奪われました。

あれから77年経ちました。

今この瞬間も、日常を奪われている人たちが世界にはいます。

戦争は昔のことではないのです。

自分が優位に立ち、自分の考えを押し通すこと、それは強さとは言えません。

本当の強さとは、違いを認め、相手を受け入れること、思いやりの心を持ち、相手を理解しようとすることです。

本当の強さを持てば、戦争は起こらないはずです。

過去に起こったことを変えることはできません。しかし、未来は創ることができます。

悲しみを受け止め、立ち上がった被爆者は、私たちのために、平和な広島を創ってくれました。

今度は私たちの番です。

被爆者の声を聞き、思いを想像すること。

その思いをたくさんの人に伝えること。

そして、自分も周りの人も大切に、互いに助け合うこと。

世界の人の目に、平和な景色が映し出される未来を創るため、私たちは行動していくことを誓います。

前号(141号)で、「沖縄慰霊の日」で発表された詩を紹介しました。今号は、8月6日の平和記念式典で2人の子ども代表(バルバラ・アレックスさん、山崎鈴さん)によって行われた誓いの言葉を取り上げました。

改めて、平和の大切さについて考えさせられました。子どもたちが「私たちが未来を創る番」と言っていますが、私たち大人には、子どもたちに平和な世の中を見せてやり、子どもたちが未来を創っていく力を付けてやる役目があるのではないのでしょうか。

文責＝青少年育成センター指導員 藤村